（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	育てる漆器プロジェクト
事業主体 （連絡先）	木曽漆器青年部 （塩尻市大字木曽平沢 2272 番地 7）
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大（オ その他）
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,757,600 円（うち支援金：1,344,000 円）

事 業 内 容

国指定の伝統的工芸品であり、塩尻市の主要地場産業の一つである「木曽漆器」は、産地の後継者・木曽漆器産業の伝え手育成への対応が急務となっており、本プロジェクトでは、産地内部での意識付けや愛着形成を長期的な視点で取り組む『自分で“塗る” “使う” “直す”「育てる」漆塗り給食トレー事業』と『後世につなぐウルシの植樹活動』の２つの事業を実施した。

【給食トレーに漆塗りを施す様子】

事 業 効 果

①楢川小中学校と連携し、小中学生に学校給食で自分が毎日使用するトレーに自分で漆を塗る機会及びそれを毎日使用する機会を提供することで、漆器への親近感・愛着の形成を図れることができた。
また、学校敷地内にウルシ畑を整備し、ウルシ苗木の試験植樹を行ったことで、次年度に小中学生と植樹を行う準備を整えることができた。

②①の活動を通じ、プロジェクトに関わる 1～9 年生および学校職員の皆さんに木曽漆器をより身近に感じてもらうことができた。今後、給食トレーの継続使用や植樹体験等により木曽漆器への思いがさらに深まることになれば、将来的な産地の後継者・木曽漆器産業の伝え手になりうる児童・生徒・職員の増加が期待できる。

【目標・ねらい】

①産地の小中学生に対する「漆器に深く関わる」機会の提供
②将来的な産地の後継者・木曽漆器産業の伝え手になりうる児童・生徒数・職員の増加

※自己評価【 B 】

【理由】
・漆塗りトレー事業は、当初の計画通りのスケジュール進めることができた一方、近隣住民との調整に時間を要し、小中学校との植樹は次年度に延期となってしまった。しかし、結果的に試験植樹ができ、より慎重な事業推進が可能となった。

今後の取り組み

・プロジェクト３年目には、楢川小中学校との連携により子ども達によるウルシの植樹を行い、生育管理をしながら漆器の原料である漆にも親しんでもらう取組を進めたい。
・３年目を迎え、本プロジェクトのメイン事業である小中学校の教育カリキュラム内での「漆塗り体験」「植樹・生育管理体験」「子どもたちへ向けたプロジェクトや漆の生態に関するレクチャー」を一通り実施することになるため、本プロジェクトの木曽漆器（伝統地場産業）と地元小中学校が連携した取組やプロジェクトへの想いを冊子にまとめて広く周知することで、過疎地域である楢川地区及び木曽漆器産業の持続可能性を高め、地域の活力や魅力の向上に資することを目指します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）